

様式第7号（第21条関係）

番 号
令和 5年6月30日

佐賀県県民協働課長 様

住 所 佐賀市与賀町3番4号 Futaba内
団 体 名 特定非営利活動法人
がん患者さんにウィッグと帽子を提供する会
代表者職・氏名 代表理事 荒川国子
電 話 番 号 0952-22-5674

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による
寄附金活用実績報告書

令和4年度において、当団体に交付された佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して別紙のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱第21条第1項の規定により提出します。

-

令和4年度 佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による寄附金活用実績報告書

- 1 団 体 名 : 特定非営利活動法人がん患者さんにウィッグと帽子を提供する会
- 2 事業実施期間 : 令和4年4月1日 から 令和5年3月31日
- 3 事業の背景 (※事業計画書から転記)

■事業の実施により実現したい佐賀県の地域像

新型コロナウイルス感染症の収束をみながら医療機関（佐賀大学医学部、医療センター好生館）へのがん患者さんの美粧に関するセミナー活動を実施できるよう働きかけていく。医療現場への認知度を高めながら、 Krebsサポートさんとがん患者さんの会の共催などを通して、当会の認知度を高めて会員増につなげていく。上記の医療機関等を中心に、ウィッグ・帽子の必要な患者さんたちの声を集めながら提供を継続していく。また、美粧サポーター人材の育成もスタートさせ、がん患者さんやその家族の相談を受けるためのコミュニケーション技術を習得した人材を増やす。将来的には美容、化粧の技術習得まで広げ、美粧心理士という新しい資格取得の講座開設に向けて準備していく方針である。

4 事業の成果

①県民の便益にどのようにつながったのか

当会のPR活動を佐賀県の主たる機関や施設で数多く活動したことで、ヘアドネーション協力者が昨年の2倍であった。また、それに倣って、ウィッグ無料レンタルは13名、帽子、インナーキャップの提供が合わせて19名となり、昨年よりも多くの患者さんに届けることができた。また美容サポーター育成講座を3回開催し、5名の受講者が美粧心理士初級コースを獲得した。

②佐賀から広がった社会像（該当する活動のみ）

5 寄附金活用事業実績 : (別記1)

6 次年度繰越額活用見込み : (別記2)

7 寄附金活用額 : (別記3)

(別記3) 寄附金活用額

【収入】佐賀県ふるさと寄附金収入額 … ① (=A+B)		610,255
(内訳)	本年度の佐賀県ふるさと寄附金収入額 … A	505,605
	本年度交付を受けた佐賀県ふるさと寄附金分	504,000
	前年度控除額(県事務経費)還付分	1,605
	前年度収入済の佐賀県ふるさと寄附金繰越額 … B	104,650

【支出】佐賀県ふるさと寄附金活用額… ② (=a+b)		552,328
(内訳)	事業に活用した寄附金額 … a	326,556
	ふるさと納税の募集に要した費用の額 … b	225,772
	返礼品等の調達に係る費用	78,750
	返礼品等の送付に係る費用	4,542
	広報に係る費用	142,480
	事務に係る費用	0

佐賀県ふるさと寄附金の次年度繰越額 … ③ (=①-②)	57,927
-------------------------------------	---------------

■直近の収支報告書掲載箇所(ホームページURL等)
